

活動分野	緑のおもしろ講座柏		
タイトル	植物にもあるオスとメスの話		
実施日時	平成 31 年 2 月 24 日（日） 10 時 ~12 時		
実施場所	柏市布施 あげぼの山農業公園		
受講者	19 名	F I C 会員他スタッフ	8 名

**活動の内容** 植物にも雌雄があることに注目し、子孫を残すための戦略を探ってみた

千葉市都市緑化植物園 みどりの相談室で多く受ける相談

「隣のアオキには実がつくのに、家にはつかないのは何故?」「隣のイヌマキには花が咲くのに、家には咲かないのは何故?」「クリの花は知っているが、あの紐状の花が、何時丸くなってイガになるの?」などを例に、植物にもオスとメスがあることに注目してみた。

- 多くの植物の花は 1 つの花の中で雄しべ（オス）と雌しべ（メス）が同居する。
- 1 株の中で雌雄の花が別々に咲くもの、雌雄の株が別々に花をつけるもの、1 つの花で雄しべと雌しべが熟す時期をずらしているもの、雌雄の株が性転換するものなど、様々な例を挙げて考察した。



ハシバミの花（雌花と雄花）



リュウゼツランの花（雌性期）

- 雌しべ、雄しべはあるが、単為生殖して繁殖するものもある。
- 雌株でも、受粉に貢献する雄株がなければ結実はしない。

植物における雄と雌の形は、植物にとって、生き残りをかけて、より好ましい生殖の工夫を秘めた姿と結論づけた。



ウツボカズラ（雌株）  
雄株不在で、結実しなかった。